

## おわりに

高度情報化が進展する中で、新しいかたちの教材が次々に登場しているが、「ME技術学習パッケージ教材」は既存の教材の長所を活用し、それを組み合わせることにより教育訓練の効果をより高めることを期待した教材である。

昨今の職業能力開発は、生産技術の進歩を反映し、訓練の内容は高度化し、あわせて訓練技法は多様化している。そのために、既存の各教材が持っている特性、機能を調和させ、より効果的に学習者にとっても学習しやすく、また教える側にとっても教えやすい教材の開発が待たれてきた。活字メディアは教育訓練の内容を順序よく確実に理解させて行くにはよいが、動きや時間を伴うものについては表現しづらい一面がある。これに対し、映像・音声メディアは、受講者に対し興味や印象を与えることを得意とし、動きや時間を知るのには都合がよい。また、トレーナは、受講者が実験・実習回路をトライアンドエラーで自作しながら理解を深めていくのに効果的である。「ME技術学習パッケージ教材」は活字メディアと映像・音声メディア、それに実験・実習トレーナの長所を組合わせてつくられた教材である。

作成のプロセスはある意味の試行錯誤の積み重ねであったが、ともあれ新しい概念にもとづいた教材作成の基礎を作ることはできたと考えている。それゆえに本報告書で試みた教材作成の記録を残すことは今後の教材作成に携わる方々に対して貴重な資料を提供することになると考える。

教材開発の記録をまとめることを目的に設置された本委員会もこの報告書の刊行を待って終了することになっている。しかし教材開発の仕事はこれで終わったわけではなく、引き続き検討されねばならない課題がある。

その第1の課題は、開発された教材の普及定着に努力を払うことである。これまで開発された教材のうち「パソコン制御」, 「PC制御」を除く4種類の教材は職業訓練教材として労働省の認定を受け、公共・民間の訓練施設において活用されているが、その教材は必ずしも充分であるとはいえない。自学自習のための教材であることを建前としているため、教材として採用するためには訓練生数に見合った台数を整備することが必要となるのが普及を阻害しているように思われる。試行を依頼した施設の担当者に対する聞き取りによれば、訓練教材としての評価は高いが、それを整備するための予算措置の困難なことが導入を阻んでいることにあると推測される。この教材の開発に携わった者にとって、広く職業訓練施設に活用されることを願うものである。

第2の課題は、これまで開発してきた教材を再編集し、さらに発展させた形で新しい教材を作ることである。これまで開発されてきた教材には極めて多くの新しい情報が含まれている。その情報を単にこの6種類の教材のためにだけにとどめるのではなく、それを応用することによってさまざまな活用方法を検討することである。例えば、内容を関連させつつ、新しい視点で教材を開発することも出来ようし、国外の職業訓練を考慮した教材開発も安易に出来よう。海外企業の生産の現場でも生産の自動化がおし進められて制御に関する技術者の養成が緊要な課題となっていることを考えれば、海外版の作成は大きな意味をもつものと考えている。